



勝川駅周辺地区のまちづくり

新たなステージへ

村井 亮治

十年一昔

十年を一区切りとして社会をみたとき、その間に著しい変化がある。市街地再開発事業（以下、「事業」）の現場でも権利者を前に使われるフレーズだ。また、地区事情で違いはあるが、まちづくり、事業の発意から完成までのおおよそ十年かかるケースが多い。

春日井市 JR中央本線勝川駅北口で施行された事業も二〇〇七年の完成までに十年超の歳月を要した。

再開発ビル一階には事業の核テナントである食品スーパーが入居し、地元商店街と共に地域の賑わい創出に貢献しながら十年間に亘り地域住民の台所として営業が続けられたが、二〇一七年に閉店に至った。その後も、権利者の努力により別のスーパーが入居したが、相次ぐ競合店の開店や消費者ニーズの変化等から二〇一九年に撤退した。

リニューアル計画

当ビルは、駅前商店街の入口に位置し、駅と商店街をつなぐ拠点的存在で、スーパー撤退後の再生が急がれた。権利者は、これまでと同じではい

けないと議論し、大型店舗誘致から店内通路を設け小區画店舗を複数配置する構成へと方針転換を図る決断をした。リニューアルに向け、住まい、健康、ワーキング、カルチャー等のテーマが検討され、多様な世代を対象とした複合商業スペース「COMET」を企画した。

COMET

CO : 「共同」「共通」「相互」
→ 町の人と取り組む意志
COME : 「来る」
→ 人がたくさん来る場所になってほしい
MEET : 「会う」「出会う」
→ 人と人が出会う、知らないモノに触れる等
「様々な出会いの機会」という意味が込められている（公式HPより）。

チームビルディング

今回のリニューアルにあたっては、地域でまちづくりに関わる別のまちづくり会社も検討チームに加わり、企画、設計、工事、テナント誘致等、「チ

ームビルディング」で取り組まれた。ビルの権利者や管理者だけでなく、地元組織も加わり、地域で支えあう仕組みがあつてリニューアルが完成した。

ビル内の「通路」は「余地」として捉え、様々なイベント等も開催され、地域住民の集いの場として、多くの集客がある。

新たな店舗には、住宅設備のショールーム、二十四時間利用可能なスポーツジムやシェアオフィス、WEB配信可能なキッチン付レンタルルーム等、地域住民に気軽に、広く利用してもらえることを期待したテナントが入居する。建物前のオープンスペースではキッチンカーを誘致し、スウィーツやスローフードが販売され、ビル内外で地域とのつながり、交流を生み出す拠点施設が誕生した。

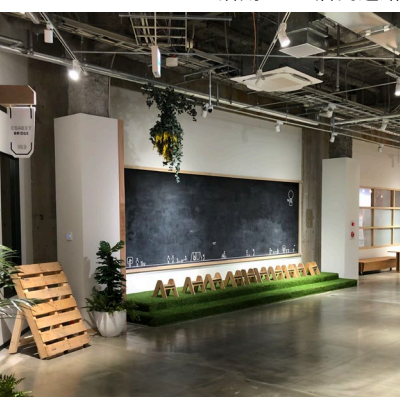


キッチンカーによるスイーツ等の販売

まちづくり 新たなステージへ

コロナ禍による社会経済活動の停滞は、リニューアルのテナント誘致、工程にも影響を与えた。その逆境を乗り越え、事業が発意されてから約三十年、三度目の節目を迎える今年、新たなステージとなるスタートが切られた。新しい生活様式への移行にあわせてCOMETも地域の拠点として親しまれ、次の十年の区切りを目指し進むことを期待する。

イベントスペースとしても活用できる店内通路



親しみがもてる黒板を使った手書きサインボード